

複雑性尿路感染症に対する ME 1207 の臨床的検討

原田 忠・木暮 輝明・土田 正義

秋田大学医学部泌尿器科学教室*

秋田大学医学部泌尿器科の入院患者のうち、4 例の複雑性尿路感染症患者に対して、新経口セフェム剤 ME 1207 を使用し、臨床効果と副作用の検討を行った。症例はいずれも慢性複雑性膀胱炎であった。投与方法は 1 回 100 mg (力価) を 1 日 3 回毎食後経口投与とし、連続 7 日間使用した。臨床効果は有効 1 例、やや有効 2 例、無効 1 例であった。細菌学的効果は尿中分離菌 6 株中 3 株消失であった。副作用および臨床検査値の異常は認められなかった。

Key words : 複雑性尿路感染症, ME 1207, 臨床成績

ME 1207 は明治製薬株式会社が開発した新しい経口用セフェム系抗生物質である。本剤は抗菌活性を有する ME 1206 の 4 位カルボン酸にピバロイルオキシメチル基をエステル結合させたプロドラッグである。ME 1206 はグラム陽性、陰性菌に広範囲の抗菌スペクトルを有し、特にグラム陽性の *Staphylococcus aureus*, *Staphylococcus epidermidis* に対する抗菌力は、既存の経口セフェム剤と比較して非常に優れており^{1,2)}、その他グラム陰性の大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、プロビデンシア属、モルガネラ属、シトロバクター属、エンテロバクター属、セラチア属にも優れた抗菌力を示すとともに、各種 β -ラクタマーゼに対しても安定である³⁾。

今回、私たちは本剤を使用する機会を得て、臨床効

果と副作用について検討したので、その成績について報告する。

対象は 1990 年 1 月から 1990 年 3 月までに、秋田大学医学部附属病院泌尿器科に入院し、治験の同意を得た 4 例の尿路感染症患者である。性別は 4 例とも男性であり、年齢は 57 歳から 81 歳におよんでいる。疾患は全例慢性複雑性膀胱炎であった。投与方法は 1 回 100 mg を 1 日 3 回毎食後に連続 7 日間経口投与した。

臨床効果は投与前後の自覚症状、尿沈渣鏡検および尿細菌培養の結果を比較し、主治医の判断基準により判定した。安全性は、本剤投与による自覚的副作用の有無および投与前後の臨床検査値の推移から検討した。

4 例の臨床成績を Table 1 に示した。全例が慢性複

Table 1. Clinical summary of UTI patients treated with ME1207

No.	Age Sex	Diagnosis	Catheter	Treatment			Pyuria*	Bacteriuria*			Evaluation	Adverse reactions
		underlying condition		dose (mg × /day)	duration (days)	total dose (g)		species	count	MIC		
1	57 M	CCC bladder cancer	+	100 × 3	7	2.1	3~5 50~99	<i>Serratia</i> sp. (-)	10 ⁴ —	—	fair	(-)
2	65 M	CCC urethral stricture	+	100 × 3	7	2.1	3~5 5~10	<i>S. epidermidis</i> (-)	10 ⁴ —	0.78	good	(-)
3	81 M	CCC bladder cancer	-	100 × 3	7	2.1	>100 >100	CNS CNS	10 ³ 10 ³	1.56 100	poor	(-)
4	68 M	CCC BPH	-	100 × 3	7	2.1	0~1 0~1	<i>E. faecalis</i> CNS <i>S. aureus</i> <i>E. faecalis</i> <i>S. aureus</i>	10 ³ 10 ³ 10 ⁴ 10 ⁴	400 50 100 400 100	fair	(-)

* before after CNS : coagulase(-) *Staphylococcus* CCC : chronic complicated cystitis
BPH : benign prostatic hypertrophy

雑性膀胱炎で、うち2例はカテーテル留置症例であった。基礎疾患は膀胱癌2例、尿道狭窄1例、前立腺肥大症1例であった。

カテーテル留置症例の2例はいずれも単独菌感染で、有効1例、やや有効1例であった。カテーテル非留置症例は、単独菌感染1例、複数菌感染1例で、それぞれ無効、やや有効であった。

UTI薬効評価基準(第3版)を準用して判定した細菌尿に対する効果は陰性化2例、不変2例であった。

各分離菌に対する細菌学的効果は、コアグラセ陰性 *Staphylococcus* 2株中1株消失、*Serratia* sp. と *S. epidermidis* が各1株で消失、*S. aureus* と *Enterococcus faecalis* が各1株で存続であった。存続した株に対する ME 1206 の MIC はそれぞれ 100, 400 $\mu\text{g}/\text{ml}$ であり、*S. aureus* は methicillin の MIC も 100 $\mu\text{g}/\text{ml}$ であった。

投与後出現菌は認められなかった。

副作用については、本剤の投与に起因すると考えられる自他覚症状は、いずれも認められず、臨床検査値の異常も確認されなかった。今回は、複雑性尿路感染

症4例だけの検討であり、有効例も1例という結果であったが、細菌学的効果では、6株中3株が消失していた。本剤が経口剤であること、カテーテル留置症例においても菌が消失していること、さらに副作用および臨床検査値異常が認められなかったことから、本剤は複雑性尿路感染症に対して、さらに検討を加える価値のある薬剤であると考えられた。

文 献

- 1) Sakagami K, Atumi K, Tamura A, Yoshida T, Nishihata K, Fukatsu S: Synthesis and oral activity of ME1207, a new orally active cephalosporin. J Antibiot 43: 1047~1050, 1990
- 2) Tamura A, Okamoto R, Yoshida T, Yamamoto H, Kondo S, Inoue M, Mitsuhashi S: In vitro and in vivo antibacterial activities of ME1207, a new oral cephalosporin. Antimicrob Agents Chemother 32: 1421~1426, 1988
- 3) 横田 健, 島田 馨: 第39回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム. ME 1207, 東京, 1991

CLINICAL STUDY OF ME1207 IN COMPLICATED URINARY TRACT INFECTIONS

Tadashi Harada, Teruaki Kigure, Seigi Tsuchida
Department of Urology, Akita University, School of Medicine
1-1-1 Hondo, Akita 010, Japan

We used a new oral cephem antibiotic ME1207 to treat 4 patients with chronic complicated cystitis. ME1207 was administered at a daily dose of 300mg for 7 days. Clinical efficacy was good in 1 case, fair in 2 cases and poor in 1 case. Bacteriologically, 3 of 6 strains isolated from urine were eradicated by treatment with ME1207. No significant side effects were noted.